



オーストラリア・モナシュ大学の語学研修[関連記事7ページ]

歯学部長就任にあたって

歯学部長 斎藤 隆史



今年4月1日付けで歯学部長を拝命しました。歯学部が抱えるさまざまな課題に直面し、その責務と使命の重さに身の引き締まる思いです。近年歯学部を取り巻く環境は大きく変化し、歯学部として適切な対応が日々求められています。歯科医師需給問題に端を発した歯科医師国家試験の難化に対しては、教員が一丸となって取り組み、昨年度の新卒者合格率は85.4%（私立歯科大学17校中3位）という結果が得られました。今後の最重要課題としては、留年率の減少と入学定員の充足が挙げられます。現在、学生の学力多様化に対応すべく学年主任・クラス担任制の強化を図り、きめ細かな学習・生活指導を行うことによって学生のモチベーション維持と各学年での進級へのプロセス管理に努めています。今年度は三者面談を実施し、さらに前期中間試験を導入して、早期に個々の学生の能力に合わせた適切な学習指導を行うシステムを整備しました。

一方で、これから歯学教育が目指すのは高齢社会のニーズに対応できる歯科医師の養成です。歯学部で

は本学の教育理念「保健・医療・福祉の連携・統合」を具現化するため、医療系総合大学の特長を生かした多職種連携教育を推進しています。新カリキュラムでは、高齢者、有病者、障がい者等への対応に関する他4学部との連携講義・実習を1年次から4年次まで順次組込んでいます（看護福祉概論、医療薬学概論、人体運動科学、医療行動科学等）。さらに5年次以降の臨床実習では、北海道医療大学病院・歯科内科クリニックでの診療参加型実習に加え、地域歯科医療および他職種との協働に関して学外医療機関および介護老人福祉施設での実習、要介護者に対する訪問歯科診療実習を実施して、地域連携・多職種連携という視点を持った歯科医師の養成に努めています。今後は5学部がさらに有機的に連携して魅力ある臨床実習教育を組織的に展開することにより、時代の要請に応え得る医療人の育成に邁進し、社会から益々大きな期待、厚い信頼そして力強い支持が得られる存在となるよう努力して行きたいと考えています。

CONTENTS

歯学部長就任にあたって	1
教員役職者・新任教員・昇任教員紹介	2
当別キャンパス 中央講義棟増築	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
2013年度入試結果報告	6
新入生オリエンテーション	
オーストラリア・モナシュ大学語学研修レポート	7
Bowlby-Ainsworth Awardを受賞	
コング・シュテリング病院との医療/技術交流	
私の学生時代	8
OG訪問 [看護福祉学部]	9
学校法人東日本学園	10
○2012年度決算 ○2013年度予算	
新入生アンケート結果報告	12
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

薬学研究科長

平藤 雅彦

歯学部長

斎藤 隆史

看護福祉学部長

平 典子

リハビリテーション科学部長

泉 唯史

個体差健康科学研究所長

黒澤 隆夫

歯学部

教務部長

越野 寿

学生部副部長

谷村 明彦

教務部副部長

遠藤 一彦

齊藤 正人

看護福祉学部

看護学科長

三國 久美

教務部副部長

山田 律子

リハビリテーション科学部

学生部長

高橋 明尚

教務部長

小島 悟

学生部副部長

山口 明彦

教務部副部長

鎌田 樹寛

歯学部附属歯科衛生士専門学校

教務主任

岡橋 智恵

新任教員



薬学部(人間基礎科学:法医学)
大学教育開発センター講師

姫嶋 瑞穂 (ひめじま みづほ)

関西大学法学部卒業。神戸大学大学院法医学研究科修士課程・博士課程修了。神戸大学人文学部教育センター、京都女子大学法医学部非常勤講師等を経て、本学就任。法律博士。



薬学部(人間基礎科学:化学)
大学教育開発センター講師

堀内 正隆 (ほりうち まさたか)

横浜国立大学教育学部卒業。同大学院教育学研究科修士課程・同工学研究科博士課程修了。科学技術振興事業団研究員、北海道大学人文学系研究院助教等を経て、本学就任。工学博士。



看護福祉学部准教授
(看護学科 実践基礎看護学)

杉田 久子 (すぎた ひさこ)

札幌医科大学衛生短期大学部、千葉大学看護学部卒業。日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程修了。里美大学大学院看護学研究科博士課程修了。看護師免許取得満期退学。日本人。著者は准看護学生講師、札幌市立大学看護学生講師等を経て、本学就任。看護学修士。



看護福祉学部准教授
(看護学科 地域保健看護学)

八木 こずえ (やぎ こずえ)

天使女子短期大学、聖路加看護大学看護学部卒業。本学大学院看護福祉学研究科修士課程修了。札幌医科大学衛生短期大学部助手、五稜会病院看護師長、精神看護専門看護師等を経て、本学就任。看護学修士。



リハビリテーション科学部教授
(理学療法学科)

泉 唯史 (いづみ ただふみ)

北海道大学理学部、国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業。鈴鹿医療科学大学保健衛生学部教授、理学療法科長、姫路獨協大学医療保健学部教授等を経て、本学就任。



リハビリテーション科学部教授
(理学療法学科)

高橋 尚明 (たかはし なおひき)

札幌医科大学衛生短期大学部卒業。信州大学大学院総合工学系研究科博士課程修了。北海道大学医学部附属病院リハビリテーション部理学療法士、北海道千歳リハビリテーション学院理学療法学科講師、教務課長等を経て、本学就任。医学博士。

昇任教員



看護福祉学部(人間基礎科学:文化人類学)

大学教育開発センター教授

花潤 韶也 (はなぶち けいや)

埼玉大学教育学部卒業、一橋大学大学院社会学研究科修士課程、博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、一橋大学大学院社会学研究科助手、本学大学教育開発センター准教授等を経て、教授就任。社会学博士。



看護福祉学部(人間基礎科学:英語)

大学教育開発センター准教授

鎌田 穎子 (かまだ さちこ)

北海道大学文学部卒業。同大学院文芸研究科修士課程修了。同博士課程単位取得満期退学。北海道文教大学外国语語学講師、本学看護福祉学部講師等を経て、教授就任。文学修士。



心理科学部(言語聴覚療法学科:英語)

大学教育開発センター講師

白島 亜矢子 (しらじま あやこ)

北海学園大学人文学部卒業。シニー工業大学学院教育学部修士課程修了。北海学園大学経営学部非常勤講師、本学心理学部助教等を経て、講師就任。TESOL修士。応用言語学修士。



リハビリテーション科学部(理学療法学科:体育学)

大学教育開発センター教授

山口 明彦 (やまぐち あきひこ)

群馬大学教育学部卒業、筑波大学大学院体育研究科修士課程修了。本学基礎教育部助教授、衛生学部准教授等を経て、教授就任。衛生博士。



歯学部講師
(生体機能・病態学系:臨床口腔病理学)

佐藤 淳 (さとう じゅん)

本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学特別研究員、歯学部助教等を経て、講師就任。歯学博士。



歯学部講師
(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))

川西 克也 (かわにし かつや)

本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学歯学部助教等を経て、講師就任。歯学博士。



リハビリテーション科学部教授
(理学療法学科)

小島 悟 (こじま さとる)

札幌医科大学衛生短期大学部、北海学園大学経済学部卒業。北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。札幌医科大学医学部附属病院理学療法士、同保健医療学部講師、カナダ・アーバータ大学リハビリテーション医学部在外研究員、本学准教授等を経て、教授就任。教育学修士。



リハビリテーション科学部教授
(理学療法学科)

鈴木 英樹 (すずき ひでき)

弘前大学医療技術短期大学部、佛教大学社会学部卒業。北星学園大学文芸研究科修士課程修了。弘前大学大学院保健医療学部附属病院理学療法士、同保健医療学部講師。本学准教授等を経て、教授就任。保健学博士。



リハビリテーション科学部講師
(理学療法学科)

長谷川 純子 (はせがわ じゅんこ)

札幌医科大学保健医療学部卒業。市立札幌病院リハビリテーション科理学療法士、国際協力機構青年海外協力隊理学療法士准員、本学助教等を経て、講師就任。



リハビリテーション科学部講師
(作業療法学科)

浅野 葉子 (あさの ようこ)

北海道大学医療技術短期大学部卒業。慶應義塾大学人間生活学研究科修士課程修了。介護老人保健施設恵み野ケアサポートリハビリテーション科副技師長、本学助教等を経て、講師就任。人間生活学修士。



リハビリテーション科学部講師
(作業療法学科)

朝日 まどか (あさひ まどか)

北海道大学医療技術短期大学部、札幌医科大学保健医療学部卒業。北星学園大学大学院社会福祉学研究科修士課程修了。北海道大学大学院保健医療学研究科助教、北洋寮リハビリテーション学院作業療法学科准教授、本学助教等を経て、講師就任。社会福祉士。



個体差健康科学研究所教授
(医学部門)

太田 亨 (おおた とおる)

関西医科大学医学部卒業。長崎大学大学院医学研究科博士課程修了。長崎大学先端生命科学研究支援センター助手。本学個体差健康科学研究所准教授等を経て、医学博士。



個体差健康科学センター教授
(医学部門)

北市 伸義 (きたいち のぶよし)

北海道大学医学部卒業。同大学院医学研究科博士課程修了。北海道大学医院眼科医員、助教、外來医長、ハーバード大学スケベンス眼研究所研究員、本学個体差医療科学センター准教授等を経て、教授就任。医学博士。



配置替

リハビリテーション科学部講師(理学療法学科)

宮崎 充功

リハビリテーション科学部教授(作業療法学科)

鎌田 樹寛

リハビリテーション科学部准教授(作業療法学科)

浅野 雅子

リハビリテーション科学部助教(作業療法学科)

児玉 壮志

2013年3月、完成。 地上10階建ての新たなランドマーク。

リハビリテーション科学部の設置に伴い、既設の中央講義棟を地上10階建てに増築し、講義室・実習室を整備しました。

6階には、主に理学療法学科で使用する動作解析実習室、物理療法実習室、運動機能評価治療室、運動療法実習室を設置。7階には、主に作業療法学科で使用するバリアフリーラボ、日常生活活動実習室、基礎作業実習室、発達評価実習室、義肢装具実習室等を設置し、各階ともに学生数に対

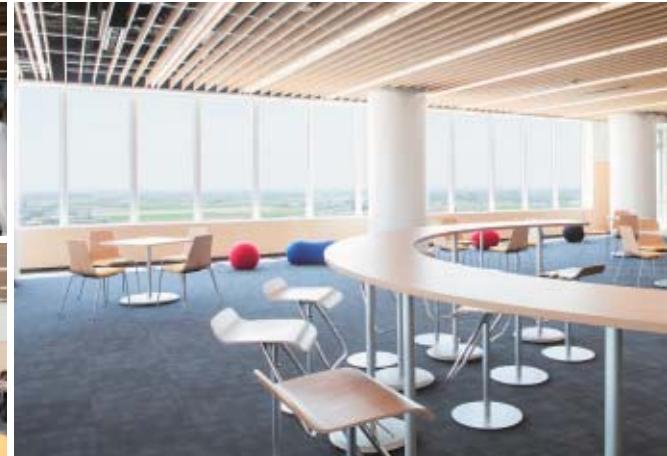
応したさまざまな機器・備品を配備しています。

また、4階には、241名収容可能な大講義室を2室、LL教室を2室設置。5階には、216名収容可能な講義室を2室、129名収容可能な講義室を1室、90名収容可能な講義室を1室、52名収容可能な講義室を1室設置します。さらに最上階の10階には展望ラウンジを整備。石狩平野を一望することができ、試験勉強からクラブ・サークルの打ち合わせまで学生が自由に活用しています。



10階には広大なビューラウンジ。 札幌市内まで見渡せます。

全学部学科の学生がいつでも自由に利用できるラウンジが最上階に。大人数で座れるソファや、窓に向かって配置されたデスクなどが揃っており、テストの勉強からクラブ・サークルの打ち合わせまでさまざまな用途に対応しています。



6階と7階には、リハビリテーション科学部の理学療法学科と作業療法学科が使用する実習室を設置。各実習室には、最新の設備が導入されています。



2階から5階には、200名以上収納可能な大講義室が7室。ほかにも、少人数制のゼミなどに対応した講義室や、LL教室、情報処理室なども設置しています。

国家試験

結果報告

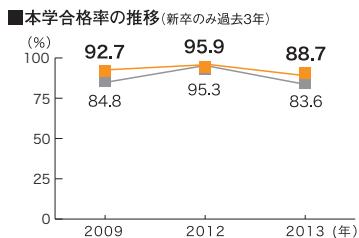
各国家試験で本学卒業生が大健闘!

本学 全国平均
■ ■

北海道医療大学

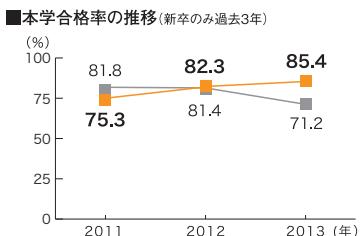
(第98回 薬剤師国家試験)

6年制移行後の国家試験でも全国平均を上回る合格率を達成。
2013年3月、薬剤師教育が6年制になって2度目の国家試験(第98回薬剤師国家試験)が行われました。本学からは新卒者115名が受験、102名が合格し、合格率は88.7%と全国平均を上回る好結果となりました。なお、本学薬学部卒業生総数4,946名の97.3%にあたる4,811名が薬剤師免許を取得しています。



(第106回 歯科医師国家試験)

全国平均を上回る合格率!
免許取得率も98.3%と高水準
2013年に行われた第106回歯科医師国家試験では、本学新卒者82名のうち70名が合格し、合格率は85.4%と、全国平均を大きく上回る結果でした。なお、全卒業者2,923名のうち、98.3%(2,874名)が免許を取得しています。



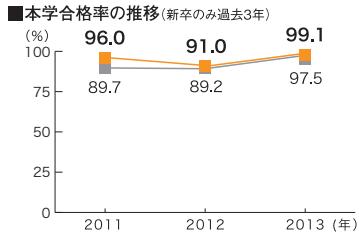
(第102回 看護師国家試験)

全卒業者1,735名のうち、98.5%が免許を取得
2013年に行われた第102回看護師国家試験では、本学新卒者108名のうち102名が合格し、合格率は94.4%でした。なお、全卒業者1,735名のうち、98.2%(1,703名)が免許を取得しています。



(第99回 保健師国家試験)

新卒合格率は99.1%。
多くが看護師とのダブルライセンスを獲得
2013年の第99回保健師国家試験では99.1%(受験者113名、合格者112名)でした。また、合格者のうち101名が看護師と保健師の国家資格をダブル取得しています。



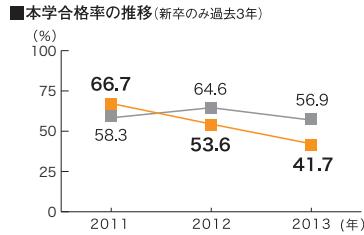
(第25回 社会福祉士国家試験)

社会福祉士国家試験の
全国平均は18.8%
2013年の第25回社会福祉士国家試験での本学新卒合格率は15.1%(受験者53名、合格者8名)でした。なお、全国平均は18.8%で、史上2番目の低さとなりました。



(第15回 精神保健福祉士国家試験)

合格者の多くが
社会福祉士とのダブルライセンスを取得
第15回精神保健福祉士国家試験の新卒合格率は41.7%(受験者12名、合格者5名)でした。また、合格者の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを実現しています。



(第15回 言語聴覚士国家試験)

新卒合格率は94.7%
1期生から連続して全国平均を上回る
2013年の第15回言語聴覚士国家試験での本学新卒合格率は94.7%(受験者38名、合格者36名)で、1期生から連続して全国平均を上回っています。また、これまでの全卒業者437名のうち417名が言語聴覚士国家資格を取得しています。



■登録・認定資格取得結果

資格・対象学部学科等	取得者数
介護福祉士 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科 (介護福祉コース)	11名
認定心理士 北海道医療大学 心理科学部臨床心理学科	55名
訪問介護員2級 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科	10名

※取得者数は申請要件を満たしている者の数

歯学部附属歯科衛生士専門学校

(第22回 歯科衛生士国家試験)

5年連続100%
3年制移行後も安定した合格率
2013年の歯科衛生士国家試験は、本校から第27期生29名が受験し、全員が合格して合格率100%を達成しました。開校以来、高い国家資格取得率を堅持しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。



※3年制移行のため2012年の受験はありません

就職状況 結果報告

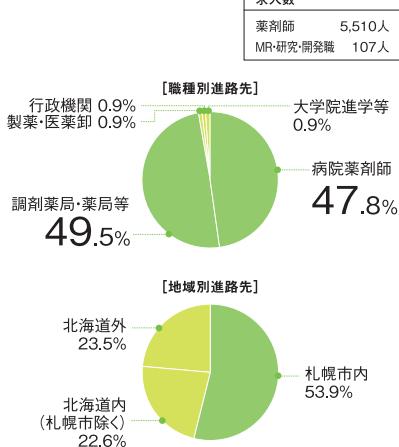
本学卒業生への評価の高さが、求人の質・量に直結。
より深い知識修得を目指し大学院へ進学する人も。

薬学部

2013年も5,000人を超える求人
6年制移行後も高い就職率を維持

6年制移行後2回目の卒業生となる2013年も、全国から5,000人を超える求人が寄せられました。卒業生の多くが希望どおりの就職を果たし、総合病院を中心病院薬剤師として、また調剤薬局の薬剤師として活躍しています。また、2013年卒業生の約20%が北海道外へ就職しています。

■2013年3月卒業生の就職先

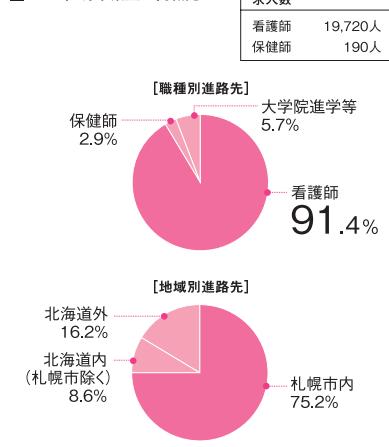


看護福祉学部／看護学科

卒業生は、札幌と首都圏を中心に
全国の総合病院で活躍

1993年の開設以来2013年3月までに、本学看護学科からのべ1,735名の卒業生が卒立っていました。その多くが大学病院、公立病院を中心とした全国の総合病院で活躍中です。医療現場が本学卒業生へ寄せる期待の大きさは、例年の求人数の多さからもわかります。

■2013年3月卒業生の就職先

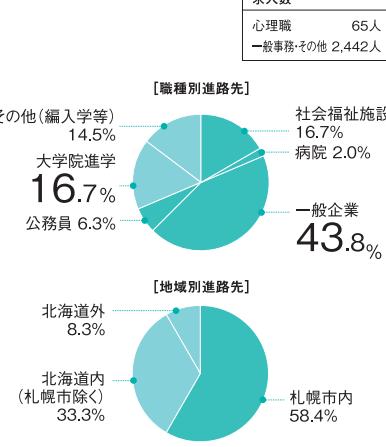


心理科学部／臨床心理学科

ビジネス界、医療、福祉、進学、
専門性を生かす進路は多彩です

2013年3月卒業生の18.7%が医療や福祉の現場へ就職、16.7%が臨床心理士資格取得をめざして大学院へ進学しました。一方、40%以上は業務種別を問わずさまざまな企業で、また公務員として、専門性を応用する道を選んでいます。

■2013年3月卒業生の就職先



歯学部

卒業生ほぼ全員が臨床能力の向上を
めざして臨床研修医の道へ

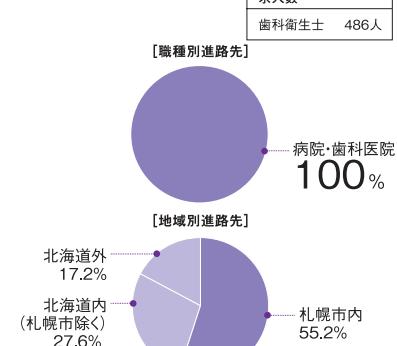
歯科医師国家試験合格後には臨床研修が義務化されています。2013年3月の本学の歯科医師国家試験合格者もほぼ全員が研修歯科医となり、本学歯科内科クリニック、大学病院をはじめとした全国の臨床研修施設で研修を行います。

歯学部附属歯科衛生士専門学校

27期連続、就職希望者全員が就職

2013年の卒業生に対する求人数は486名で、就職希望者全員が就職し、開校以来27期連続で100%就職を果たしました。また本年度は卒業生全員が病院・クリニックや歯科医院に就職しましたが、障がい者施設、地域住民を対象に歯科健診や保健指導を行う保健所や市町村の保健センターなどへ就職することもできます。

■2013年3月卒業生の就職先

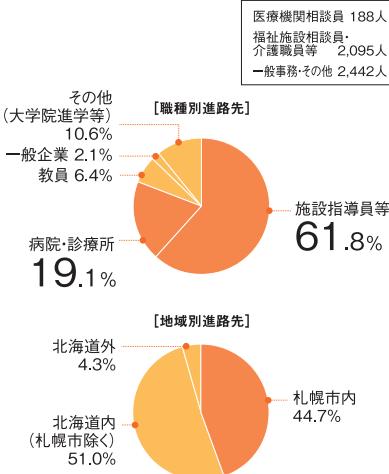


看護福祉学部／臨床福祉学科

就職者の80%が専門職
教員の夢も3名が叶えました

2013年3月卒業生のうち進学等を除く就職者の80.8%が病院、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、老人保健施設などに福祉の専門職として就職しています。また、3名は養護学校等の教員になりました。本学科の専門職の年間求人は2,000人以上と、出身地への就職も安心です。

■2013年3月卒業生の就職先

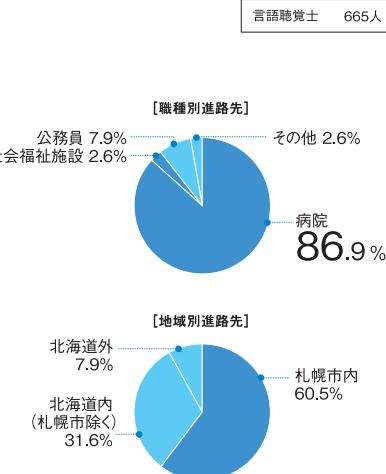


心理科学部／言語聴覚療法学科

2013年卒業生の約90%が
病院の言語聴覚士として活躍

専門の治療・訓練を必要とする言語聴覚障がい者の増加に伴って言語治療を行う医療機関や福祉施設が増えていることから、毎年本学科には多くの求人が寄せられ、就職実績は安定したものとなっています。2013年3月卒業生は就職者の約90%が病院へ就職しました。

■2013年3月卒業生の就職先



2013年度 入試 結果報告

大学の志願者総数は昨年度の1.5倍に増加。

全学科、前年度よりも志願総数増。

リハビリテーション科学部開設により、志願者総数は前年度より2,106名増の6,137名で、志願者総数は全学科において、増加しました。

編入学試験の志願総数は41名。

本学全体では41名が編入学を志願しました。うち32名が入学して、実質競争倍率は1.2倍でした。

専門学校志願者の約8割がAO方式入試を利用。

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しており、志願者は昨年34名から43名へと増加し、全体の約80%を占めました。

■2013年度入試結果 北海道医療大学

	薬学部	歯学部	看護福祉学部	心理科学部	リハビリテーション科学部	歯科衛生科		
			看護学科	臨床福祉学科	言語聴覚療法学科	理学療法学科	作業療法学科	歯学部附属歯科衛生士専門学校
AO方式入試	志願者数	47名	14名	54名	19名	15名	24名	60名
	受験者数	47名	14名	54名	19名	15名	24名	60名
	合格者数	29名	14名	10名	18名	9名	15名	19名
	入学者数	29名	13名	10名	18名	9名	15名	19名
	実質倍率	1.6倍	1.0倍	5.4倍	1.1倍	1.7倍	1.6倍	3.2倍
一般推薦入試	志願者数	28名	0名	47名	0名	13名	9名	54名
	受験者数	28名	—	47名	—	13名	9名	54名
	合格者数	20名	—	18名	—	12名	9名	20名
	入学者数	20名	—	18名	—	12名	9名	20名
	実質倍率	1.4倍	—	2.6倍	—	1.1倍	1.0倍	2.7倍
指定校 特別推薦入試	志願者数	41名	2名	31名	21名	10名	12名	—
	受験者数	41名	2名	31名	21名	10名	12名	—
	合格者数	41名	2名	31名	21名	10名	12名	—
	入学者数	40名	2名	31名	20名	10名	12名	—
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—
一般前期入試 (大学)	志願者数	1日目 246名	1日目 47名	1日目 400名	1日目 162名	1日目 182名	1日目 168名	1日目 257名
	受験者数	2日目 174名	2日目 26名	2日目 380名	2日目 159名	2日目 169名	2日目 159名	2日目 207名
	合格者数	1日目 244名	1日目 43名	1日目 388名	1日目 159名	1日目 179名	1日目 166名	1日目 256名
	入学者数	2日目 164名	2日目 23名	2日目 371名	2日目 155名	2日目 165名	2日目 154名	2日目 202名
	実質倍率	3.4倍	1.5倍	8.0倍	1.8倍	3.0倍	4.0倍	5.1倍
一般後期入試	志願者数	98名	79名	93名	71名	80名	67名	92名
	受験者数	91名	72名	89名	67名	71名	62名	83名
	合格者数	10名	69名	18名	56名	27名	11名	13名
	入学者数	8名	14名	16名	14名	7名	1名	10名
	実質倍率	9.1倍	1.0倍	4.9倍	1.2倍	2.6倍	5.6倍	6.4倍
センター前期A入試	志願者数	281名	130名	308名	103名	134名	107名	—
	受験者数	281名	130名	308名	103名	134名	107名	—
	合格者数	56名	115名	42名	75名	58名	47名	—
	入学者数	8名	12名	2名	12名	7名	9名	—
	実質倍率	5.0倍	1.1倍	7.3倍	1.4倍	2.3倍	2.3倍	—
センター前期B入試	志願者数	101名	30名	118名	71名	96名	65名	—
	受験者数	101名	30名	118名	71名	96名	65名	—
	合格者数	35名	28名	31名	67名	53名	38名	—
	入学者数	15名	0名	5名	14名	12名	14名	—
	実質倍率	2.9倍	1.1倍	3.8倍	1.1倍	1.8倍	1.7倍	—
センター後期入試	志願者数	43名	14名	28名	27名	27名	19名	—
	受験者数	43名	14名	28名	27名	27名	19名	—
	合格者数	10名	14名	9名	23名	15名	5名	—
	入学者数	2名	1名	0名	6名	3名	1名	—
	実質倍率	4.3倍	1.0倍	3.1倍	1.2倍	1.8倍	3.8倍	—
TOTAL	志願者数	1,059名	342名	1,459名	633名	726名	630名	670名
	受験者数	1,040名	328名	1,434名	622名	710名	618名	655名
	合格者数	322名	286名	254名	438名	299名	218名	141名
	入学者数	186名	53名	106名	113名	80名	66名	97名
	実質倍率	3.2倍	1.1倍	5.6倍	1.4倍	2.4倍	2.8倍	4.6倍

2013年度 新入生オリエンテーション

本学では、新入生が大学での新生活をスタートするにあたり、一にも早く環境に慣れ、将来の目標に向かって充実した学生生活を送れるように、新入生を対象とした様々なオリエンテーション・ガイダンスを実施しています。今年度は4/8(月)から4日間にわたり実施されました。

前半は学内を会場とし、後半は札幌市南区の定山渓のホテルを会場に一泊二日にわたって行われ、本学同窓会を中心に社会の第一線で働く各学部の卒業生、そして上級生や教員が一体となった楽しく充実した多くのイベントが実施されました。また、新川学長、黒澤副学長、大野理事が参

加され各学部・学校の会場で挨拶をしていただきました。

参加した学生のアンケートには「多くの友人ができて大変楽しいオリエンテーションだった。また、卒業生や上級生の話や、色々なイベント・相談コーナーなどがあり、これから学生生活や将来像の具体的なイメージがつかめた。」との感想が多く寄せられました。

特に今年度より開設のリハビリテーション科学部においては、一期生たる自覚と規律さを存分に持ちつつも、若者らしい、学生らしい明るさと友好的な姿勢をもってオリエンテーションに



臨んでおり、ホテル関係者より「大変素晴らしい学生さんたちだ。」との声をいただきました。



オーストラリア・モナシュ大学 語学研修レポート

去る3月4日(月)～3月23日(土)までの約3週間にわたり、薬学部1名、歯学部2名、看護学科4名、言語聴覚療法学科4名、計11名の学生と教員2名がオーストラリア・モナシュ大学の語学研修に参加しました。

研修を体験した学生からは、「自身の英語が現地で通じるのかなど、不安が入り交じる中での出発でしたが、ホームステイをしていたおかげで、ホストファミリーが積極的に話しかけてくれるので、気づけば自然に会話を楽し

むことができるようになっていました。本当の家族のように接してもらっていたので、帰国時は名残惜しくさびしい気持ちでいっぱいでした。」「大学では英語を勉強するだけではなく、オーストラリアの文化や歴史、医療制度についても知識を深めることができ、日本との違いに気づく良い機会となりました。休日にはメルボルンの市街でショッピングを楽しんだり、動物園に行くなど、どれも貴重な経験となりました。」「海外へ出たことがなかった私にとって、今回の語学研修は、私の大学生活の中でも大きな出来事となりました。滞在中は、言語をはじめ慣れないことが多く、挑戦の毎日でしたが、帰国後の自分は一回り成長した顔になったと両親にも言われました。参加できて本当に良かったです。」などの声が寄せられました。



心理科学部臨床心理学科 近藤清美教授がBowlby-Ainsworth Awardを受賞

心理科学部臨床心理学科の近藤清美教授がJ.BowlbyとM.Ainsworthが創設したアタッチメント(愛着)理論の研究に寄与したとしてNew York Attachment ConsortiumよりBowlby-Ainsworth Awardを受賞いたしました。

受賞した研究内容として、アタッチメント(愛着)理論の親子間の愛着において、子供が養育者を安全基地として利用し、安心感をいただく点をヒトのみならずサルにおいても研究を行い、親子間の愛着が靈長類においても見受けられる現象であることを証明し、生育環境や社会的関係が親子の愛着関係への影響を明らかにしたことです。

日本では初の受賞により欧州で創始された愛着の概念が文化を越え

て普遍的であることを示し、この受賞で、アタッチメント(愛着)理論による世界と日本をつなぐ架け橋となるでしょう。



受賞のクリスタル製の盾

歯学部歯学科 永易教授 ユング-シュテリング病院(ドイツ)との医療/技術交流

永易裕樹歯学部教授は、平成25年2月18日から約2か月間、フランクフルトの約120km北に位置するジーゲンという町にあるDiakonie Klinikum Ev Jung-Stilling Krankenhausの顎顔面口腔外科及び形成外科に医療交流を目的として出張し、診療に参加しました。

非常に友好的な受け入れ体制により、精力的に中央手術室での手術に参加し、今後は、「臨床における外来・入院患者管理」、「手術手技の違い」に関して議論し、日独双方における発展的な面の相互理解を深める

とともに、本学における診療への還元が期待されます。また、同医療機関における効率的な人的資源の配置、病床稼働法等の診療体制、医療サービス、及び教育面においての歯学部臨床教育、卒後臨床研修のカリキュラム、教育体制等について学び、運用可能なものを見いだしていくことにより、本学の歯学部臨床教育、特に、参加型臨床教育への積極的な運用が見込まれます。

なお、本学の口腔外科とJung-Stilling Krankenhaus 顎顔面口腔外科との間で、人事交流が図れるよう基盤形成を行う予定です。

【ユング-シュテリング病院】

ノルトラインヴェストファーレン州に3施設ある中核病院としての役割を果たす病床数800の大規模施設。顎顔面口腔外科は、Hell教授を中心とする3名の顎顔面口腔外科医(ダブルライセンス)と4名の歯科医師から構成されています。年間新患数は、約6000名、手術は中央手術室において1200例程度行われ、外来での全身麻酔下での手術件数も同等数あり、周囲100～200kmを診療圏とした地域医療を担っています。



外来にてHell教授(左)と永易教授(右)



中央手術室での術中写真。永易教授(左)と顎顔面口腔外科医(右)

北海道（医療大）に来て 変わったこと

歯学部
歯学科

教授 石井 久淑



北海道当別町での生活は、大学生時代から現在に至るまで（学生及び教員として）20年余りが過ぎました。長いようであつたという間だった北海道の生活で、3つのことがそれまでの自らの人生から大きく変わったと感じています。

一つ目は、本学歯学部に入学して親元を離れた生活が始まったことです。独り暮らしは天国のような日々でした。テレビ、外出、食事など身の回りのもの全てが自由となり、とてもない開放感にときめいたことを思い出します。それとともに、社会での



余計な雑音（？）を排除して、「歯」と向き合っていた頃の私

一個人としての自分に対する他人の評価の厳しさと自由ゆえの責任の重さを感じた苦い思い出も少なくありません。そして、いつでも誰かに見られていることを意識して、責任を持った行動や言動を心がけるようになりました。

2つ目は、気候です。本州出身の私は北海道に来るまで、雪を見たことがありませんでした。周りの人からは「寒さが厳しくて大変でしょう。」と同情の言葉をよくいただきました。しかしながら、寒さに嫌気がさして、雪がない本州に帰りたいと思ったことはありませんでした。その大きな要因はスギ花粉が北海道には少ないことです。長年のスギ花粉アレルギーに悩まされていた私にとって、北海道は天国に一番近い島のようでした（島といえば島ですが）。そして、アレルギー治療における抗原除去療法の効果と重要性を身をもって認識しました。日常生活においても、余計な雑音（抗原）を排除して、物事の本質に全力で向かう努力をするようになりました。

3つ目は人です。人付き合いはどこにいってもなることはなく、健全な精神と肉体を養うためには不可欠なものだと思います。特に、北海道の人

口密度と人との距離は物理的及び精神的に最もベストな環境といえるのではないかでしょうか。大都市での人為的な大渋滞では耐えがたい苛立ちを感じますが、北海道の猛吹雪による交通障害に対しては、大自然の偉大さに感服し脱帽することもしばしばです。自然は侮ることができません。幾度となく猛吹雪で遭難しかけたときに（雪山ではなく大学の行き帰りの道路にて）、自らの危険を顧みず、声をかけて車を引っこり出してくれた人々に命を救われることも少なからず経験しました。この頃から、いい人になりたいと努力するようになったかもしれません。

学生時代（20代ぐらい）は、卒業したら周りの先生や社会人みたいな素敵（？）大人になっていくんだろうなあと将来に対して憧憬的で楽観的な見通しを抱いておりました。しかし、卒業して20年後、40代を迎えた現実の自分は今までと本質的には何も変わっていないような気がします。しかし、立場は年齢とともに変化して、将来を夢見ていた頃の自分と同年代の現在の学生さん達は、その立場での自分を当時と同じ目線でみてることに最近気づいてきました（良いことも悪いことも）。

ですから、「自分」作りの集大成の場としての大学生活の役割の大きさとそれに携わる我々の責任の重さを感じずにはいられません。

私の 学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。

今回は石井教授と百々講師のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

心理学部
臨床心理科

講師 百々 尚美



私は学生生活を2度過ごしています。1度目は高校卒業後、広島修道大学へ進学してから博士前期課程までを過ごした6年間。2度目は〇〇年後（そこは詳しくは聞かないでください）の北海道医療大学博士後期課程での3年間です。

1度目の学生生活は、生理心理学の実験に明け暮れた日々でした。毎日、脳波を測定する実験室かその隣の実験処理室で朝から晩まで過ごしていました。当時の実験室では、ようやくミニコンピューターからパーソナルコンピューターへと移行していた頃で、実験を開始するには毎回自分でプログラムを作るところから始めなくてはいけません。そのため毎晩パソコンの前でせっせとプログラムを作ってはバグの検出をしていました。ですが、折角出来上がったプログラムを一晩走らせて、当時のパソコンのスペックではなかなか処理が進ま

ず、やきもきしながらパソコンの前で待機していましたことを覚えています。一日中実験室の中で過ごしていたので台風が来ていることも知らず（広島では毎年最低1回は台風が上陸していました）一晩過ごし、翌朝指導の先生が心配して実験室へいらっしゃった時、「おはようございます。先生、今朝は早いですね。」ととほけたことを言ったこともあります。この話は未だに、当時の先輩達の笑い話にされています。

2度目の学生生活は、大阪の大学で教員として働きながらの二足のわらじでの生活でした。毎週学生の自分と教員としての自分を飛行機の中で切り替えて大学へ通っていました。寝ていてもきちんと空港に到着できるので、飛行機での移動はさほど苦ではありませんでしたが、熱心な院生さんたちとのディスカッションには毎回自分自身の勉強不足を痛感していました。指導教官の坂野雄二先生のご指導と、坂野研究室の院生さんたちの温かい励ましがあったからこそ、博士後期課程の3年間を充実して過ごすことができたと思います。写真は坂野先生と院生さんたちとともにバルセロ



博士課程在籍中、バルセロナの国際学会にて（中央が私）

ナの学会へ参加した時のものです。

振り返ってみると、私の1度目の学生生活はがむしゃらに突き進んでいた日々でした。これはおそらく10代後半、20代前半の若さに任せてのものだと思います。2度目の学生生活は、若くはありませんでしたが、多少なりとも社会生活を体験した中から湧き出た興味や疑問を探求したいという思いから邁進することができました。

研究についての疑問や興味は何歳になんでも尽きるものではありません。もし皆さんが、「もうよい歳だから」とか、「大学を出たらもう勉強なんて」と考えているのならば、私自身の体験をもとに、何歳からでも学生生活に勤しむことはできるということをお伝えしたいと思います。大学は何歳になんでも探究心を揺さぶられる貴重な場所です。皆さんのお健闘を祈ります。



OG訪問

看護福祉学部
看護学科編

卒後5年目の西村希美さんが勤務するのは
手稲山の自然を望む手稲渓仁会病院。
在学中に成人看護学実習を行った同じ病棟で
いまは後輩の指導にも活躍する中堅の仲間入りです。

医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 看護師
西村 希美 さん（看護福祉学部看護学科2009年卒業）

この病棟で実習生から看護師へ

札幌市北西、JR手稲駅すぐそばに手稲渓仁会病院の建物が立ち並びます。救急科を含む33の診療科、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、地域災害拠点病院、ドクターヘリ、ロボット支援手術など今日の医療のキーワードが揃い、道内のマスコミにも度々取り上げられる病院です。

卒後5年目を迎えた西村さんが勤務するのは「泌尿器・腎センター」（泌尿器科、腎臓内科、循環器内科の病棟）、本学在学中に成人看護学実習を行った病棟です。「臨地実習の中で最も大きな達成感を得た」という西村さんはこの場所を就職先の第一志望とし、その熱意が受け入れられ看護師として就職をかなえました。



患者さんの元へ向かう西村さん。ポケットの中にはいつも本学の卒業記念品の電車が入っています。



病棟内に2つある看護師チームのリーダーの一人として滝澤英毅医師（腎臓内科部長、透析室長）の指示を受ける西村さん。医師からの信頼も厚いことが、スムーズなコミュニケーションからわかります。

育てる喜びがわかるように

組織の中での役割、責任も徐々に大きくなりました。3年目の後半にはリーダー業務を行うようになり、病棟内の患者さん一人ひとりの看護についてチームメンバーと共に考えています。新人看護師や、中途採用看護師の支援も行っており、「看護の意味や手順を改めて確認する機会に」と、自分の成長にもつなげています。かつて指導した新卒看護師が今は後輩を指導している姿に、育てる喜びも味わえるようになりました。

「看護師1年目は、環境の変化にアリテイショックを受けるかもしれません。でも、それを乗り越えたところに力を尽くす価値のある世界が見えてきます。看護師とは素晴らしい職業であると日々実感しています」。

西村さんはじめ本学卒業生の存在は、後に続く者の励みと安心です。西村さん、これからも後輩の指導、よろしくお願いします。

患者さんの持つ力に着目

西村さんは主に、道内ではやく導入されたロボット支援による前立腺全摘出をはじめとした周手術期ケアや、透析療法で入院された患者さんとご家族の生活支援などの看護ケアを行っています。

様々な治療を受ける患者さん一人ひとりが持っている力に着目して、その人らしい生活を患者さんと一緒に考えていくことが看護師の大切な役割です。そのためには患者さんを一人の人間とし

終末期の心に寄り添って

手稲渓仁会病院看護部の継続教育は、キャリア開発ラダーが明確に示され、途切れることなく高いモチベーションを持ち続けられる環境を重視した構成になっています。西村さんの“寄り添う看護”への強いこだわりも、2年目の研修で得た経験からでした。

一人の患者さんに関わった看護を、文献を用いて振り返り、ケアの評価を行う研修です。西村さんは末期腎がん患者さんを受け持ちはしました。緩和ケアを受ける患者さんとの2か月は、西村さんの使命感を強く刺激しました。「激しい身体面と

精神面の痛みをほとんど言葉にしない方でしたが、一生懸命患者さんの今に寄り添うことで、徐々に心の内を明かしてくれるようになりました。私にとっては命そのもの、尊厳ある最期の迎え方に真剣に向き合った時間でもありました。身体的な痛みのコントロールは薬でできますが、心の痛みには近くにいる看護師の存在が深く関わることが、西村さんの心に刻まれました。



この病棟の看護師6人が本学卒業生。取材時は5人が勤務中でした。左から谷田衣理奈さん（2011年卒）、扇田祐樹さん（2012年卒）、西村さん、宮間史保子さん（2013年卒）、鈴木捷允さん（2013年卒）。「男子卒業生も数多く活躍中ですよ」と西村さん。



処置室で検査を受ける患者さんの不安を和らげるのに、西村さんの笑顔はよく効くようです。

学校法人 東日本学園

2012年度決算について

2012年度決算の概要

はじめに

経済状況の悪化や少子化による18歳人口の減少等により、学校法人の経営は一層厳しさを増しています。そうした状況下においても本学園の社会的使命である教育研究活動を発展させていくため、授業料収入などの有限の財源のほかに補助金や受託研究等外部からの資金導入を積極的に図り効率的・効果的に教育研究活動を展開してきました。今後も努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【計算書の解説】

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育研究活動等諸活動に対する資金の収支を明らかにするものです。

消費収支計算書は、当該年度の学生納付金等の「帰属収入」から「基本金組入額」を控除した「消費収入」と人件費・教育研究経費等の「消費支出」との均衡状態、内容により経営状況を把握するものです。消費収支計算書は、資金収支計算書の収入の部から学校法人の帰属収入となる借入金等収入および資金の動きだけを示す前資金、その他の収入等は除かれます。また、支出の部から借入金等返済支出、施設関係支出、設備関係支出等が除かれます。一方、帰属収入として寄付金收入に現物寄付金が計上され、消費支出として退職給与引当金繰入額および減価償却額が計上されます。

貸借対照表は、学校法人の会計年度末の財政状態をあらわした計算書で、負債・基本金および消費収支差額の状況を前年度末の額と対比して示します。財務状況や経営分析に使用する重要なものです。

【資金収支計算書】

収入に関しては、学生徒等納付金収入が予算比5,311万円減、手数料収入が予算比2,765万円増、寄付金収入が予算比6,926万円増、補助金収入が予算比1,511万円減、資産運用収入が予算比3万円の増、雑収入が予算比3,168万円増となりました。事業収入が予算比1億1,617万円減となりました。収入の計は予算比259万円減の88億9,000万円となりました。

また、支出に関しては、人件費支出が予算比2億8,798万円減、教育研究経費支出が予算比3億8,055万円減、管理経費支出が予算比569万円減となりました。中央講義棟の増築工事及び歯科内科クリニックの改修工事を行いました。支出の計は予算比8億9,738万円減の93億8,423万円となり、次年度繰越支払資金は予算比8億9,479万円増の69億1,315万円となりました。

【消費収支計算書】

帰属収入は予算比5,837万円減の86億4,936万円となり、基本金組入額は予算比8億5,404万円減の13億6,095万円となりました。その結果、消費収入は予算比7億9,566万円増の72億8,840万円です。

【資金収支計算書】

【収入の部】				【支出の部】			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生徒等納付金収入	5,869,330	5,816,217	53,113	人件費支出	5,247,030	4,959,044	287,986
手数料収入	84,000	111,652	△27,652	教育研究経費支出	2,289,571	1,909,017	380,554
寄付金収入	28,000	97,260	△69,260	管理経費支出	504,305	498,608	5,697
補助金収入	978,662	963,547	15,115	施設関係支出	2,389,108	2,413,436	△24,328
資産運用収入	76,000	76,033	△33	設備関係支出	568,457	449,597	118,860
事業収入	1,387,746	1,271,572	116,174	その他の支出	600,567	596,219	4,348
雑収入	259,000	290,686	△31,686	予備費	(24,413)	25,587	49,587
前受金収入	779,250	744,600	34,650	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
その他の収入	485,209	500,810	△15,601	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
資金収入調整勘定	△1,054,599	△982,369	△72,230	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
当年度資金収入合計(A)	8,892,598	8,890,008	2,590	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
前年度越支払資金	7,407,382	7,407,382	0	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
収入の部合計	16,299,980	16,297,390	2,590	△1,343,000	△1,441,685	98,685	

* 四捨五入の関係で、合計など数値が計算上一致しない場合があります。
なお、以下の表についても同様です。

また、消費支出は予算比7億4,131万円減の83億3,139万円となり、消費収支差額(=消費収入-消費支出)は10億4,299万円の支出超過、翌年度繰越消費支出超過額は110億8,112万円となりました。一方、帰属収支差額(=帰属収入-消費支出)は対予算比6億8,294万円増の3億1,796万円でした。

【貸借対照表】

総資産337億3,820万円のうち、固定資産は263億8,894万円、流動資産は73億4,926万円となりました。流動資産のうち現金預金は69億1,315万円です。

総負債40億5,299万円のうち、固定負債は17億9,585万円、流動負債は22億5,714万円となりました。なお、長期・短期の借入金はなく、未払金等が増えたため負債額が前年対比10億27万円増加しました。これらの結果、総資産から総負債を差し引いた正味資産は296億8,521万円となり、前年対比3億1,796万円増加しました。

また、減価償却の累計額は、222億8,616万円であり、基本金の当期組入額は13億6,095万円で組入合計額は407億6,633万円となりました。

【消費収支計算書】

【収入の部】				【支出の部】			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生徒等納付金	5,869,330	5,816,217	53,113	人件費支出	5,247,030	4,959,044	287,986
手数料	84,000	111,652	△27,652	教育研究経費支出	2,289,571	1,909,017	380,554
寄付金	53,000	119,655	△66,655	管理経費支出	504,305	498,608	5,697
補助金	978,662	963,547	15,115	施設関係支出	2,389,108	2,413,436	△24,328
資産運用収入	76,000	76,033	△33	設備関係支出	568,457	449,597	118,860
事業収入	1,387,746	1,271,572	116,174	その他の支出	600,567	596,219	4,348
雑収入	259,000	290,686	△31,686	予備費	(24,413)	25,587	49,587
帰属収入合計(A)	8,707,738	8,649,362	△58,376	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
基本金組入額合計	△2,215,000	△1,360,958	△854,042	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
消費収入の部合計	6,492,738	7,288,404	△795,666	△1,343,000	△1,441,685	98,685	

△ 当年度資金収支差額(A)-(B) △1,389,027 △494,228 △894,799

【資金収支計算書】

【収入の部】				【支出の部】			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生徒等納付金	5,869,330	5,816,217	53,113	人件費	5,225,998	4,928,271	297,727
手数料	84,000	111,652	△27,652	教育研究経費	3,177,971	2,776,729	401,242
寄付金	53,000	119,655	△66,655	管理経費	617,905	566,376	51,529
補助金	978,662	963,547	15,115	資産処分差額	20,000	49,120	△29,120
資産運用収入	76,000	76,033	△33	徴収不能額	0	10,903	△10,903
事業収入	1,387,746	1,271,572	116,174	予備費	(19,157)	30,843	49,587
雑収入	259,000	290,686	△31,686	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
帰属収入合計(A)	8,707,738	8,649,362	△58,376	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
基本金組入額合計	△2,215,000	△1,360,958	△854,042	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
消費収入の部合計	6,492,738	7,288,404	△795,666	△1,343,000	△1,441,685	98,685	

△ 当年度資金収支差額(A)-(B) △364,979 317,963 △682,942

【消費収支計算書】

【収入の部】				【支出の部】			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生徒等納付金	5,869,330	5,816,217	53,113	人件費	5,225,998	4,928,271	297,727
手数料	84,000	111,652	△27,652	教育研究経費	3,177,971	2,776,729	401,242
寄付金	53,000	119,655	△66,655	管理経費	617,905	566,376	51,529
補助金	978,662	963,547	15,115	資産処分差額	20,000	49,120	△29,120
資産運用収入	76,000	76,033	△33	徴収不能額	0	10,903	△10,903
事業収入	1,387,746	1,271,572	116,174	予備費	(19,157)	30,843	49,587
雑収入	259,000	290,686	△31,686	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
帰属収入合計(A)	8,707,738	8,649,362	△58,376	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
基本金組入額合計	△2,215,000	△1,360,958	△854,042	△1,343,000	△1,441,685	98,685	
消費収入の部合計	6,492,738	7,288,404	△795,666	△1,343,000	△1,441,685	98,685	

△ 帰属収支差額(A)-(B) △364,979 317,963 △682,942

【資金収支計算書】



【貸借対照表】

【資産の部】				【負債・基本金・消費収支差額の部】			
科 目	2012年度末	2011年度末	増 減	科 目	2012年度末	2011年度末	増 減
固定資産	26,388,948	24,486,776	1,902,172	固定負債	1,795,853	1,831,300	△35,447
有形固定資産	18,769,484	16,870,078	1,899,406	流動負債	2,257,144	1,221,424	1,035,720
その他固定資産	7,619,464	7,616,698	2,766	債務の部合計(B)	4,052,997	3,052,724	1,000,273
流動資産	7,349,260	7,933,196	△583,936	基本金	40,766,332	39,405,374	1,360,958
資産の部合計(A)	33,738,208	32,419,972	1,318,236	総益消費支出超過額	11,081,121	10,038,126	△1,042,995
				合計	33,738,208	32,419,972	1,318,236
△正味資産(A)-(B)	29,685,211	29,367,248	317,963	△正味資産(A)-(B)	29,685,211	29,367,248	317,963

(2013年3月31日)

【主な事業の実績】

2012年度事業計画に基づく、主な事業と進捗状況は、以下のとおりです。

教育及び学生支援活動

1.リハビリテーション科学部(理学療法学科・作業療法学科)の設置 少子高齢化など様々な困難を抱える新たな時代を背景に、保健・医療・福祉分野において貢献する高度なリハビリテーション・スタッフの養成を目的としたリハビリテーション科学部を平成25年4月1日付を以て設置しました。

2.大学院リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)の設置 リハビリテーション科学部を基礎とする新たな修士課程を平成25年4月1日付を以て設置しました。これにより、從来の大学院教育における実績と研究プロジェクトなどを研究結果の蓄積を継続していくとともに、6年制の薬学部卒業生をはじめ、既卒の社会人を含めた高度専門職業人の養成を目指します。

3.大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(新課程)の設置 従来の大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程を改編し、6年制薬学部を基礎とする新たな博士課程(4年課程)を平成24年4月1日付を以て設置しました。これにより、従来の大学院教育における実績と研究プロジェクトなどを研究結果の蓄積を継続していくとともに、6年制の薬学部卒業生をはじめ、既卒の社会人を含めた高度専門職業人の養成を目指します。

4.大学院政策学研究科採択事業

①がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

当該事業の前身である旧「がんプロフェッショナル養成プラン」から引き継ぎ、これまでの実績を踏まえ、より効率的な運営を目指すため、新たな「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」を実施することになりました。この新プランでは、これまでの実績を踏まえ、より効率的な運営を目指すため、

主な事業の実績(つづき)

11.「薬学教育・研究者育成学生」の実施

本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学研究科博士課程に進学し、研究科修了後教員として本学薬学部の教育・研究を支えることを志望する人物・学業成績とも優れている入学者を支援することを目的とした「薬学教育・研究者育成学生」を平成25年度からの入試で実施した。

12.歯学部附属歯科衛生士専門学校入学者に係る入学金の減免

歯学部付属歯科衛生士専門学校生入学者に対する入学金減免制度を昨年度に引き続き実施した。

13.その他の経済的支援

成績優秀・心身健全で、経済的理由で奨学生の貸与が必要と認められた学生を対象とした「一般奨学生」、父母等学費支弁者が災害・事故等により学費の支弁が著しく困難となった学生で、成績優秀・心身健全である学生に貸与される「災害・事故等奨学生(平成24年度実績:3名)」など、本学独自の奨学制度を前年度に引き続き実施し、経済的支援策を実施している。

研究活動

1.外部資金の導入

科学研究費など競争的研究資金へより積極的に申請を行うとともに、寄付金や受託研究など外部資金の導入を図っている。なお、平成25年度科学研究費への申請を11月に行った。

2.教員研究費等の配付基準見直し

平成24年度において、基礎配付額の30%を削減し配付した。また重点配分研究費として1,500万円を措置し、競争原理の導入を図り実施した。(重点配分研究費受給者 196名)

診療活動

1.医療機関の収入状況等

両医療機関における延患者数・医療収入の実績等は次のとおりである。大学病院では、延患者数 1,818名増であったが、院外処方導入もあり、医療収入については81,031千円減であった。また、歯科内料クリニックでは、延患者数2,380人減、医療収入16,787千円減と、ともに前年度実績を下回った。

なお、大学病院における病床(24床)稼働率は、43.0%(平成23年度:50.5%)であった。

2.歯科医師臨床研修医の受け入れ

歯科医師臨床研修医を36名受け入れ、研修を行った。

社会連携(貢献)

1.公開講座

設定テーマに沿った開講や内容の充実等、一般向、卒業生・職能人向ともに本学の特色を生かした講座を実施した。

2.高大連携

平成24年7月に、職業観や進路意識の醸成を目的とした体験学習を中心

に実施するため、札幌市立の高校8校(札幌旭ヶ丘、札幌開成、札幌藻岩、札幌清田、札幌新川、札幌平岸、札幌啓北商業、札幌大通)と連携協定を締結した。

生涯学習

1.認定看護師の養成

認定看護師は、日本看護協会が実施する認定看護師認定審査に合格し、ある特定の認定看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者と定義づけられている。本学では、認定看護師研究センターにおいて、現在、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん化学療法の3分野を開設し、その養成に努めている。なお、平成25年度より募集休講していた看護管理分野の募集を再開することとした。

2.専門看護師の養成

専門看護師は、特定の分野で実践家をサポートできる研究・指導力と、卓越した実践力を備えた看護師と定義づけられており、日本看護協会で資格認定を行っている。本学では、大学院看護福祉学研究科で、老年、精神、成人、地域、母性及び感染の6分野を開設し、その養成に努めている。

国際交流

1.国際交流

本学では、現在、大学間4大学(アルバータ大学・台北医学大学・中南大学・モナシュ大学)、学部間5大学(同済大学・ニューヨーク州立大学・バッファロー校・青島大学・インドネシア大学・スマラブル大学)と連携協定している。現在、新たに当別町と姉妹都市を提携しているスウェーデンの大手と交流を検討している。

2.語学研修

平成24年8月にアルバータ大学と、平成25年3月にはモナシュ大学と語学研修を実施した。

(参加者数:アルバータ大学13名、モナシュ大学11名)

広報活動

募集広報として、前年度に引き続き新聞広告、交通広告、進学系雑誌の広告などを実施した。また、ホームページの拡充、メールマガジンの定期発行及びオープンキャンパスなどを実施した。

平成25年度入試においては、リハビリテーション科学部新設に伴い、認可後に推薦入試およびAO方式入試を実施。また一般前期および一般後期入試においてリハビリテーション科学部の募集を行った。薬学部の一般前期入試、センター前期A入試にて薬学教育・研究者育成学生の募集を行った。

経営管理

1.人件費

平成23年度から実施した給与体系の一部見直し(第1段階)に加え、今後の収支状況を勘案し、第2段階として以下の項目について慎重に検討を進めている。

①役員報酬を含む給与表の見直し(独自の給与表の作成)

②諸手当(研究、職務、大学院、入試手当等)の見直し(兼担手当については見直し直す)

なお、人件費の抑制を図るため平成21年度に導入した「ポイント制人件費管理制度」については、平成24年度に目標値の3%の削減を図ったが、その効果、適切性等について今後検証を進める。

2.予算の効率的運用・削減

各部局に配布された予算の執行にあたって、事業計画に優先順位を付し、効率的な執行・削減に努めた。

施設・設備

1.新学部設置計画に基づく中央講義棟の増築工事(2,063,060千円)

中央講義棟校舎増築工事を7月に着手し、平成25年3月に完了した。

2.新学部設置計画に基づく歯科内科クリニック棟の改修工事(178,014千円)

歯科内科クリニック棟の改修工事を9月に着手し、平成25年1月に完了した。

3.テニスコートの改修工事(16,800千円)

テニスコート(2面)をクレートからオムニコートへ改修するための敷設設備工事を実施した。

4.学生用トイレの改修工事(13,424千円)

各学部棟及び総合図書館学生用トイレの改修工事を実施した。

5.歯学部学生支援室の設置工事(1,942千円)

歯学部1階のプランニングコーナーを改修し、学習支援室を設置した。

「2020行動計画」の推進

1.人間力教育の向上PJ

授業改善と教育力向上を目的として、授業公開を実施した。また、就職キャリア支援として、就職相談会を5月、10月、11月の3回実施した。

また、増築した中央講義棟10階に9室の小講義室を設け、セミやグループ別講義などアクティブラーニングに対応できる体制を整え、講義に使用しない時間帯は、学生がグループワークや国家試験対策勉強会に自由に使用できるものとし、学生同士が切磋琢磨し、刺激し合える環境を整備した。

2.医療機関経営の健全化PJ

医療機関健全化プロジェクトによる具体的な実施案に基づき、引き続き収支改善に努めている。

3.キャババ再構築PJ

リハビリテーションセンター等設置計画検討WG、高齢者ケアセンター等設置計画検討WG及び学生福利厚生施設等設置計画検討WGを組成し、計画の策定を進めている。

4.経営管理PJ

人件費削減に向けた諸手当の見直しについて引き続き検討中である。

学校法人 東日本学園

2013年度予算について

2013年度予算の概要

概要

本学園の「パラダイムシフトによる新医療人育成の北の拠点づくり」を旗印とした「2020行動計画」は、今年で5年目を迎える、その成果を着実に実行に移してきた。2013(平成25)年度は、教育理念に基づき新たな事業展開として理学療法学科と作業療法学科の2学科を構成するリハビリテーション科学部を開設し、さらに学部を基礎とする大学院リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻修士課程を設置するほか、教育研究環境の整備・充実を図り、経営の安定を図る計画である。

こうした中、歯学部が4年連続で入学定員割れするなど、収入の減少、支出の増加の状況から、帰属収支差額はマイナスで推移することが見込まれ、從来にも増して厳しい経営状況が続くことが予想される。

2013(平成25)年度予算は、経常的事業における経費の更なる削減・見直しを図る一方、重要性・緊急性を勘案し、最少コストで最大効果を上げる事業計画の策定に努め、事業計画を立案した。

[資金収支予算書]

収入に関しては、前年度予算比750万円増の89億10万円を見込んでいた。科目別には、事業収入等の減収が見込まれる半面、学生生徒等納付金収入、補助金収入、前受金収入の増収が見込まれる。

資金収支予算書

【収入の部】		(単位:千円)			【支出の部】		(単位:千円)		
科 目	2013年度予算	2012年度予算	増 減	科 目	2013年度予算	2012年度予算	増 減	科 目	2013年度予算
学生生徒等納付金収入	5,883,130	5,869,330	13,800	人件費支出	5,250,165	5,247,030	3,135	人件費	5,211,166
手数料収入	84,000	84,000	0	教育研究経費支出	2,338,361	2,280,913	57,448	教育研究費	5,225,998
寄付金収入	28,000	28,000	0	管理経費支出	460,753	493,806	△33,053	管理経費	5,225,998
補助金収入	1,049,403	978,662	70,741	施設関係支出	114,911	238,375	△22,272,464	施設関係費	5,225,998
資産運用収入	76,000	76,000	0	設備関係支出	712,874	564,934	147,940	設備関係費	5,225,998
事業収入	1,342,739	1,387,746	△45,007	その他の支出	1,442,650	600,567	842,083	その他の支出	5,225,998
雑収入	341,928	259,000	82,928	予備費	50,000	50,000	0	予備費	5,225,998
前受金収入	808,817	779,250	29,567						
その他の収入	446,383	485,209	△38,826						
資金収入調整勘定	△1,160,300	△1,054,599	△105,701						
計	8,900,100	8,892,598	7,502						
前年度繰越支払資金	6,415,319	7,407,382	△992,063						
収入の部合計	15,315,419	16,299,980	△984,561						

2013年度(平成25年度)当初予算は、3月21日開催の評議員会・理事会、

予算の補正是、5月27日開催の評議員会・理事会で承認されましたので、その概要についてお知らせします。

主な事業計画

■教育及び学生支援活動

1.リハビリテーション科学部(理学療法学科・作業療法学科)の設置

2.大学院リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻修士課程(新課程)の設置

3.国家試験対策の充実・支援

4.教育支援体制の強化

5.「夢つなぎ入試」の実施

6.本学卒業生子女入学奨励制度の実施

7.「歯学部待特待生入試」制度の実施

8.「薬学教育・研究者育成学生」制度の実施

9.震災等被災者に対する入学候補料及び入学金免除の実施

10.歯学部附属歯科衛生士専門学校生の入学金免除の実施

11.その他の経済的支援

研究活動

1.文部科学省「大学間連携共同教育推進事業(分野連携)」採択事業の推進

2.文部科学省「大学改革推進事業(がんブロックシヨナル養成基盤推進プラン)」採択事業の推進

3.外部資金の導入

4.教員研究費等の配付基準の見直し

診療活動

1.医療機関の経営健全化

社会貢献・連携

1.北海道「福祉・介護人材サポートネットワーク構築事業」採択事業の推進

2.高大連携

3.公開講座

4.コミュニケーションバース事業

5.本学施設の地域との開放

6.地域住民の安全確保の提供

生涯学習

1.薬剤師支援センターにおける認定薬剤師研修の実施

2.専門看護師(CNS)の養成

3.診療看護師(NP)の養成

4.認定看護師(CN)の養成

国際交流

1.大学・学部間交流

2.語学研修

経営管理

1.人件費

2.予算の効率的運用・削減

施設・設備

1.リハビリテーション科学部設置に伴う研究用

2.各学部の講義室及び実習室の視聴覚機器・AV機器が機能低下していることから、年次計画により機器を更新し教育環境を整備する

3.その他、老朽化した各学部講義室及び実習室等の空調設備を更新し、夜間及び大学休業日のエネルギーの効率化・省エネ化を図る

「2020行動計画」の推進

1.人間力教育の向上プロジェクト

2.医療機関経営の健全化プロジェクト

3.キャババ再構築プロジェクト

4.経営管理

消費収支予算書

【収入の部】		(単位:千円)			【支出の部】		(単位:千円)		
科 目	2013年度予算	2012年度予算	増 減	科 目	2013年度予算	2012年度予算	増 減	科 目	2013年度予算
学生生徒等納付金	5,883,130	5,869,330	13,800	人件費	5,211,166	5,225,998	△14,832	教育研究費	5,225,998
手数料	84,000	84,000	0	教育研究費	3,302,334	3,169,313	133,021	管理経費	5,225,998
寄付金	53,000	53,000	0	管理経費	549,141	607,406	△58,265	資産処分差額	5,225,998
補助金	1,049,403	978,662	70,741	資産処分差額	10,000	20,000	△10,000	予備費	5,225,998
資産運用	76,000	76,000	0	予備費	50,000	50,000	0		5,225,998
事業収入</									

2013年

新入生アンケート 結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて志願したのかを聞いてみました。

多くの学生が「医療系総合大学」に期待。

全ての学科において、医療系総合大学である点を魅力に挙げた学生が多いという結果になりました。また「学生生活」という回答も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

注目が集まる「国家試験成績」と「キャンパス環境」。

高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。また「キャンパス環境」を挙げる学生も多く、臨床心理学科、言語聴覚療法学科では1番の魅力に。自然と先端の施設・設備で学べる環境も本学の強い魅力であると言えます。

歯科衛生士専門学校では、
およそ8割がオープンキャンパスに参加。

施設見学や体験学習などを通して学校の雰囲気を自分の目で実際に確かめられるオープンキャンパス。例年通り、多くの学生がこの機会を利用していることがわかります。

■有効回答者のプロフィール

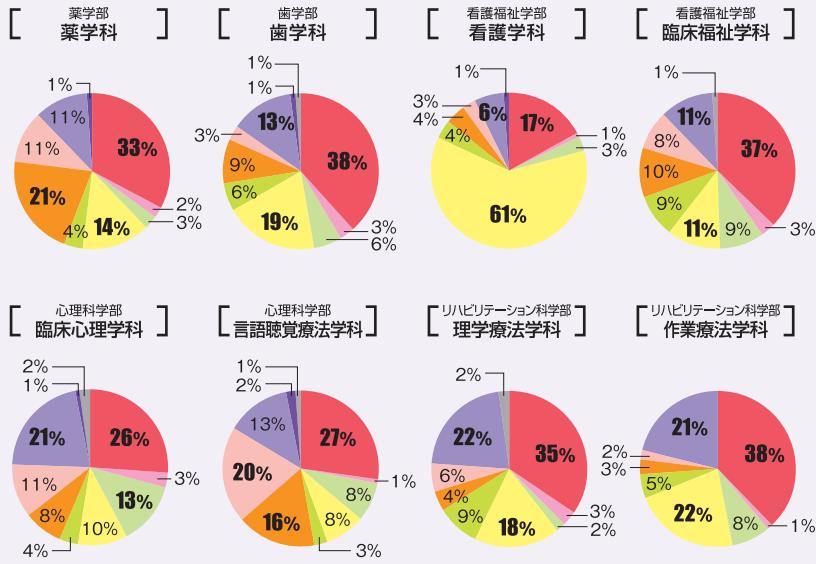
	薬学部	看護福祉学部	心理科学部	リハビリテーション科学部
薬学部	185	57 ^{※1}	113 ^{※1}	80 ^{※1}
出身地	北海道	168	43	106
東北	10	2	3	6
東京・神奈川・千葉・埼玉	3	2	2	1
上記以外の関東甲信越	1	0	1	2
東海・北陸	0	4	0	0
関西	0	4	1	1
中国・四国	0	1	0	0
九州・沖縄	3	1	0	0
性別	男	83	35	16
	女	102	22	97
卒業年度	2013年3月	146	24	92
	2012年3月	20	12	9
	2011年3月以前	19	21	12
入試形態	AO方式入試	29	13	10
	一般推薦入試	20	0	18
	特別推薦入試	40	2	31
	一般前期入試	65	11	24
	センター前期入試	7	12	2
	センター前期入試	14	0	4
	一般後期入試	8	5(9 ^{※2})	16
	センター後期入試	2	1	0
編入学試験	0	4	8	3

※1 編入生を含める ※2 一般後期B入試

北海道医療大学

Q. 本学を志望した際、併願を考えた他大学と比べて
本学のどういうところに魅力を感じましたか?

- 医療系総合大学である
- 校風
- 教育内容
- 学生生活
- クラブ活動
- 国家試験成績
- 就職状況
- キャンパス環境
- たくさんの教育・研究プロジェクトに採択されている
- その他

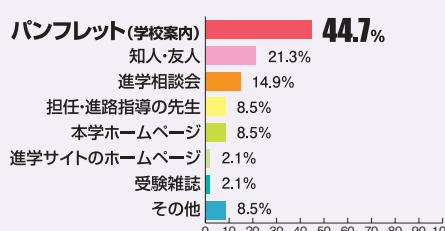


歯学部附属歯科衛生士専門学校

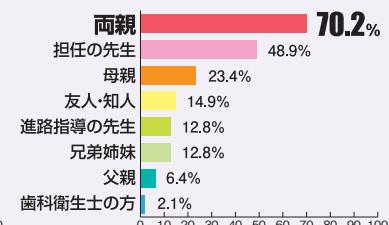
Q. 本校のオープンキャンパスに
参加しましたか?

参加した **76.6%**

Q. 本校を
何で知りましたか? (複数回答可)



Q. 進路決定にあたって
誰に相談しましたか? (複数回答可)



EDITOR'S NOTE

年度が変わってから、約5ヶ月が過ぎました。入学式など新年度の行事が一通り終わると、昨年とは違う講義、人間関係、生活リズムなど、新しい環境に直面したと思います。新たな環境に戸惑いつつも、G.W.で一息ついてエネルギー充填完了、学問に趣味に、と昨年以上に充実した学生生活を送り各自の目標に邁進している人も多いと思いますが、中には、これまでとは違う環境に直面して戸惑ったまま、いつの間にか5ヶ月の時間が過ぎていた、という人もいるかと思います。こうなると、あれもこれもできない、なんとかしなければ、と焦りばかりが先に立ち行動が空回りします。悪循環に陥りがちです。こういうときは、落ち着いて、自分の目標から一度目をそらし、まず今の環境で踏み出せる一步に目を向けると、道が開けるのです。J.P.モルガンの言葉ですが、「どこかにたどり着きたいと欲するならば、今いるところに留まらないことを決心しなくてはならない」。その一步が大いなる道程の記念すべき最初の一歩にならんことを。

(K.U記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌

No.155

STAFF ● 遠藤 泰尚也 中山英二
遠藤紀美恵 浜上尚也 宮崎信也
大塚裕之 滝原尚也 宮崎信也
木村志貴 明美 松本利明
宮崎隆志 国見明美

発行日 ● 2013年8月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念

生命の尊厳と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。